

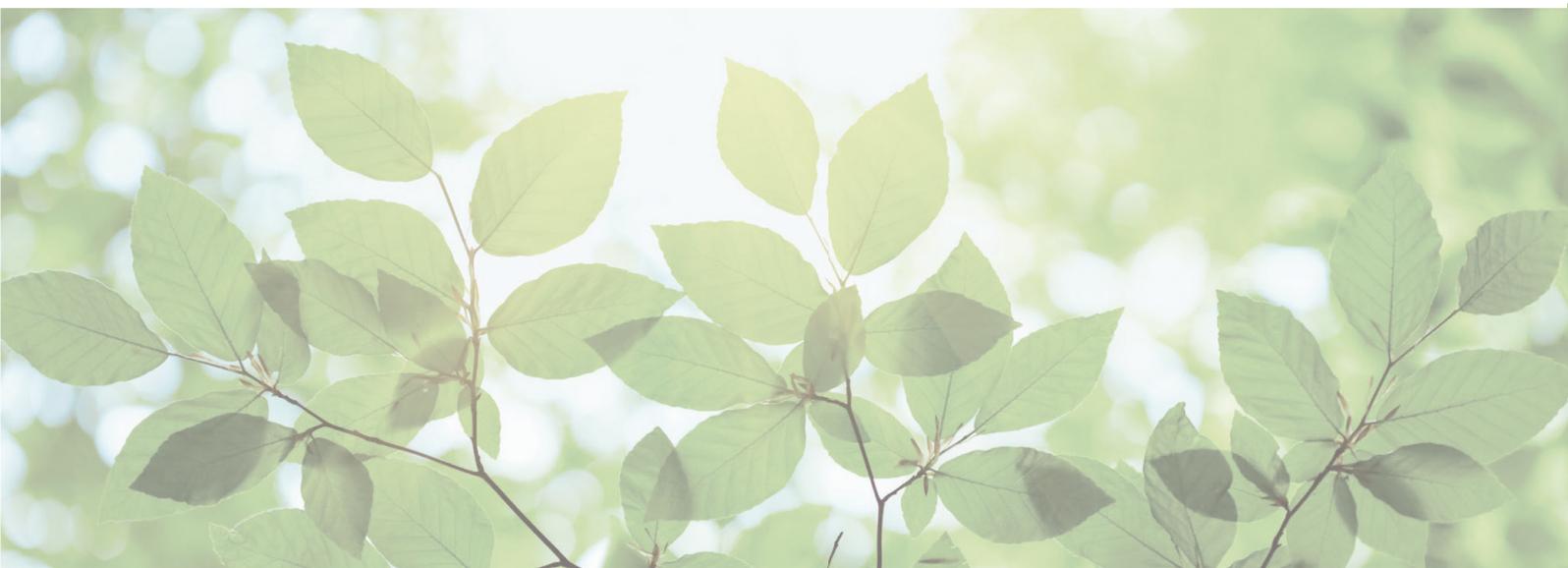
# 産学連携プロジェクト

IOGの産学連携プロジェクトは、企業とともに研究成果の社会実装を目指す「個別共同研究」、ジェロントロジーの8つの分野を学ぶ「アカデミー」、参加企業とIOGとの交流を目的とした「ネットワーク」の3層構造になっています。飯島機構長と主な参加企業の特別対談や担当教員、企業から出向している方々のコメントを通して、プロジェクトがもたらす価値や今後の取り組みについてお伝えします。

ジェロントロジー産学連携プロジェクトの活動内容 ..... 72

ジェロントロジー産学連携プロジェクト 参加企業 ..... 74

産学連携プロジェクトの活動実績 ..... 75



## ジェロントロジー産学連携プロジェクトの活動内容

ジェロントロジー産学連携プロジェクトは、集い・共有する「ジェロントロジー・ネットワーク」、体系的な学び・総合知で深掘りする「ジェロントロジー・アカデミー」、新たな事業開発につながる「個別共同研究」の3層構造で成り立っています。

### メンバーが集い・共有するジェロントロジー・ネットワーク

ジェロントロジー・ネットワークは、参加企業とIOGの交流やメンバー同士の討論を通じて、超高齢社会といかに向き合っていくかを学ぶ場です。最新のトピックスやアカデミアの研究など、さまざまな情報をキャッチアップしながら自由な討論や意見交換を行い、共有することにより、各企業がどのように自社の強みを生かすべきかを考えます。

#### 2022年度に行った産学交流機会（サロン）とディスカッションテーマ

\*ハイブリッド開催を含む

##### 1) アクティブヘルス&ケア

自社の強みを生かした産学官連携でのフレイル予防事業を考える  
フレイル予防＝ライフスタイルへの影響、ゼロ次予防は重要  
人生をたのしみながら個人と地域を元気にするには

##### 2) ライフデザイン

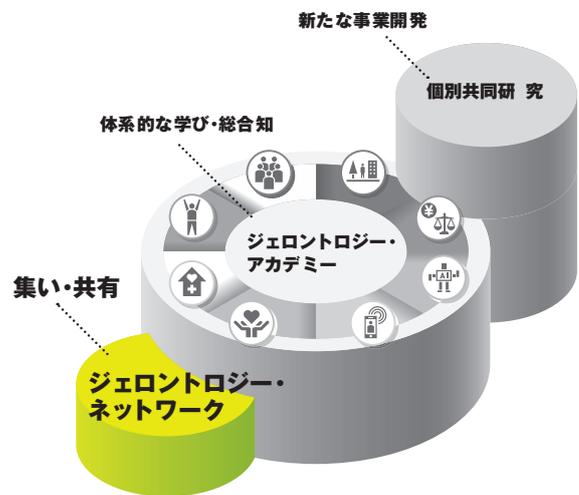
直近の活動からライフ感じるライフスタイル  
富士フィルムの写真の整理とライフスタイル  
「はたらく」人生の節目や未来感の意見交換

##### 3) 移動分科会サロン

高麗グリスロ視察  
鎌倉リビングラボ DAY  
移動の歴史と未来

##### 4) 企業と教員紹介&雑談交流サロン

: 楽しい学びと暮らし・: 楽しい食・楽しい暮らしのつながり  
楽しみながら未来の活躍のために  
プチ座談会



### レクチャーとグループワークを共同研究に繋げるジェロントロジー・アカデミー

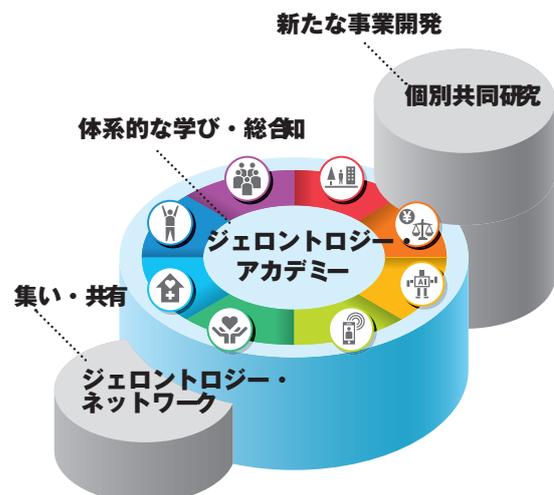
ジェロントロジー・アカデミーは、2020年度からスタートしたジェロントロジー産学連携プロジェクトの中心として位置付けられている活動です。ジェロントロジー・アカデミーでは、8つの領域からテーマを設定し、関連する講演や話題提供を行うレクチャーと、自分事とするためのグループワークの二つの構成で進めています。

アカデミー参加企業は、アカデミーのカリキュラム（前期・後期）、各種研究会、ジェロネットの活動に参加できます。

さらに、アカデミーで学ぶ中で社会実装に向けてテーマを絞り込み、各研究会の立ち上げ、活動をスタートしています。

#### ■ 2022年度の研究会

- ・高齢者就労研究準備会
- ・地域包括ケアシステム研究会
- ・食の在り方研究会
- ・モビリティの在り方研究（移動支援、サービス提供）勉強会
- ・オーラルフレイル予防研究会
- ・金融関連および法研究会 勉強会
- ・生活支援（情報）システム研究会
- ・まちづくり標準化研究会



高齢者地域就労の仕組みの開発



高齢者就労と生涯現役社会の実現への社会的課題解決に向けたロードマップ作成を目指します。生涯現役社会の新しい働き方を開拓するための具体策について討議します。

フレイル予防産業の創出



東大IOGのエビデンスの蓄積と産学連携の先進事例を学び、各社の強みを生かして国民に向けた啓発を強化し、幅広いフレイル予防産業を展開するための方策を探りながら、健康長寿社会の実現を目指します。

生活支援産業の創生



社会的な需要が高まる高齢者の生活支援サービスのビジネスモデル創出における課題を明らかにし、解決のためのアイデアを具体化します。

地域包括ケアシステムを支える民間事業開発



高齢者が最後まで自分らしい人生を送るために、フレイルの段階に合わせたサービスを地域のインフラとして提供できる地域包括ケアシステムを展望します。



高齢者地域就労の仕組みの開発



住宅地再生の標準化



フレイル予防産業の創出



生活支援産業の創生



地域包括ケアシステムを支える民間事業開発



人・まち全体をつなぐ情報システム開発



高齢者の「暮らす・繋がる・働く」などの行動を支えるために、ICTを用いた情報システムが果たすべき産官学民の役割について討議します。

共同研究 8つの領域

IOGでの学び・研究を未来の事業に活かしたい企業向けステージ

ジェロントロジー・アカデミー

住宅地再生の標準化



老朽化、空き家が問題となっている住宅地を「持続性をもつ住宅、住宅地」に変えるため、フィールド研究や地域課題共有から産官学民で解決の道を探り出します。

金融関連および法



人生100年時代の高齢期には、金融と法に関する継続的かつ包括的な支援体制が不可欠です。成年後見、信託、リバースモーゲージ等を用いた、見守りと生活支援の新しいあり方を構想します。

ジェロンテクノロジーの開発普及



生きがいある自立・自律生活を支え、高齢期のマイナスをプラスに転換する技術やシステムを探求し、経済と生きがいを両立するICTやロボット活用を学びます。

社会実装と新たな事業開発につなげる個別共同研究

共同研究として、個別の研究課題に取り組み、社会実装を目指します。東京大学への派遣・出向も行い、パートナーシップで課題解決、新たなビジネスモデル創出、そして政策提言も行います（派遣・出向を行う個別共同研究プロジェクト紹介：→P79～85）

個別共同研究参加企業は、アカデミー・ネットワークを含む産学連携プロジェクトのすべての活動に参加できます。

産学連携プロジェクトの詳細はホームページでも紹介しています。

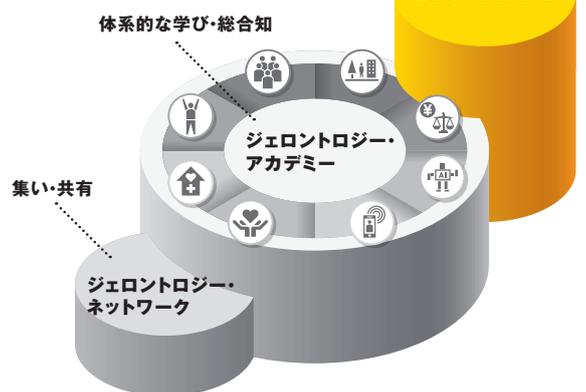
▶ <https://www.iog.u-tokyo.ac.jp/collaboration/>



▲パンフレット

新たな事業開発

個別共同研究



## 参加企業

2022年度

個別共同研究

## 個別共同研究

イオン株式会社	東芝データ株式会社
伊藤ハム株式会社	株式会社ニチレイフーズ
一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会	日清オイリオグループ株式会社
株式会社ウェルモ	株式会社ニッスイ
株式会社 NTT ドコモ	株式会社ノバケア
大塚食品株式会社	ハウス食品グループ本社株式会社
キューピー株式会社	はごろもフーズ株式会社
一般財団法人高齢者住宅財団	株式会社長谷工コーポレーション
相模屋食料株式会社	株式会社日立製作所
サンスター株式会社	株式会社フードケア
ジェックスインターナショナル株式会社	不二製油グループ本社株式会社
株式会社住協	フジッコ株式会社
セントラルスポーツ株式会社	株式会社マルタマフーズ
大正製薬株式会社	ミサワホーム株式会社
大和ハウス工業株式会社	株式会社明治
株式会社東急不動産 R&D センター	株式会社ユニマット リタイアメント・コミュニティ
東京ガス株式会社	株式会社ロッテ



## ジェロントロジー・アカデミー

株式会社かんぽ生命保険
SOMPO インスティテュート・プラス株式会社
独立行政法人都市再生機構 (UR 都市機構)
日本医療福祉生活協同組合連合会
三井住友信託銀行株式会社
株式会社ヤクルト本社



## ジェロントロジー・ネットワーク

アボットジャパン合同会社	一般社団法人日本声磨き普及協会
江崎グリコ株式会社	株式会社長谷工総合研究所
エム・シー・ヘルスケア株式会社	パナソニック株式会社
キッコーマン株式会社	パラマウントベッド株式会社
京セラ株式会社	株式会社ブリヂストン
株式会社クリニコ	株式会社ホリホック
株式会社コンバート・ワン	ヤマハ発動機株式会社
株式会社 JVC ケンウッド・デザイン	株式会社 Rehab for JAPAN
株式会社ジェイテクト	株式会社リンクエナジー
株式会社スズキ	株式会社ルネサンス
住友生命保険相互会社	



## 産学連携プロジェクトの活動方針

- ・ジェロントロジー産学連携プロジェクトも3年目を迎え、『交流』から『総合的な学び』を行い『社会実装を目指す』取組を強化する。
- ・『交流』については、スタートから2年間は全てオンラインでの開催であったが、With コロナを見据えて、出来るだけ対面の機会を増やす。
- ・『総合的な学び』については、アカデミーの8つのテーマの内、4つのテーマ（フレイル予防、生活支援、医療と介護、まちづくり）においては、実際の活動事例を基にフィールドワークを行う。
- ・他の4つのテーマの内、高齢者就労・生涯現役と金融関連及び法においては共同研究会の立ち上げを視野に入れたアカデミーとし、情報システムとジェロントテクノロジーについては社会の最先端の学ぶ機会とする。

## 活動実績

※個別研究会は各々開催

2022年	全体ミーティング	アカデミー	サロン
4月	<b>ジェロントロジー産学連携プロジェクト開講式</b> ◇講演「東京大学 IOG 及びジェロントロジー産学連携プロジェクトの目指す方向」 飯島 勝矢 (東京大学) ◇個別研究会(新規研究会立ち上げ、強化する研究会の紹介) 辻哲夫 (東京大学) ◇プロジェクトの活動方針 事務局 ◇新規着任教員、スタッフ紹介 ◇総合討論		<b>アクティブヘルス&amp;ケア</b> テーマ：自社の強みを生かした産学官連携でのフレイル予防事業を考える
5月		<b>フィールドワーク Take1 オリエンテーション</b> ◇講義「フィールドワークでなにを学ぶのか：柏豊四季台でのまちづくりを含めて」 辻哲夫 (東京大学) ◇講義「UR 都市開発の取組、考え方」 UR 都市開発 ◇総合討論  <b>高齢者就労・生涯現役</b> ◇講義「生涯現役社会づくりに向けた政策～70歳までの就業確保に向けて」 遠藤 至 (厚労省) ◇講義「職業寿命の長期化に向けた「企業取組」「キャリア自律」を考える」 池口 武志 (定年後研究所) ◇パネルディスカッション	<b>ライフデザイン</b> テーマ：直近の活動からライフ感じるライフスタイル
6月	<b>事業地視察会</b> ◇講義「豊四季台プロジェクトの紹介」 DVD 視聴 ◇「住民とともに進める高齢者政策」 木村 清一 (東大) ◇講義「ココファン柏豊四季台の取組」 学研ココファン ◇団地内視察	<b>フィールドワーク Take2 地域包括ケア (医療介護)</b> ◇講義「豊四季台医療介護システムの狙い」 辻哲夫 (東京大学) ◇講義「在宅医療・介護連携の推進」 梅澤 貴義 (柏市) ◇講義「住み慣れた地域に住み続けるために」 鈴木 雅史 (長岡福祉協会) ◇講義「訪問看護の役割」 田中 佳子 (スギメディカル) ◇グループワーク  <b>金融関連及び法</b> ◇講義「世の中の常識を変える「シニアの意識改革の必要性と取組」 ～武蔵野大学しあわせ研究所主催「古希式の集い」の取組～」 樋口 範雄 (武蔵野大学) ◇講義「金融における高齢者への取組」 その1「FP 資格試験の現状について」 沼田 基成 (金融財政事情研究会) その2「銀行ジェロントロジスト認定試験について」 古橋 哲哉 (同) ◇講義「弱くなっても強く生きられる社会へー誰もが取引の主体でいられる社会と法環境を考えるー」 菅富 美枝 (法政大学) ◇講義「シニア分譲マンションの事例報告～認知症とマンション管理～」 佐藤 多聞 (フュージャーズケアデザイン) ◇総合討論	<b>アクティブヘルス&amp;ケア</b> テーマ：フレイル予防＝ライフスタイルへの影響、ゼロ次予防は重要  <b>ライフデザイン</b> テーマ：富士フィルムの写真の整理とライフスタイル  <b>企業と教員紹介&amp;雑談交流</b> テーマ：楽しい学びと暮らし・楽しい食・楽しい暮らしのつながり  <b>アクティブヘルス&amp;ケア ライフデザイン 企業と教員紹介</b>



※個別研究会は各々開催

2022年	全体ミーティング	アカデミー	サロン
7月		<b>フィールドワーク Take3 フレイル予防活動の展開</b> ◇講義 産業界からの報告「フレイル予防活動の取組、話題提供など」 今井好一（日本医療福祉生活共同組合連合会） 山本秀幸（はごろもフーズ） 古谷千寿子（日清オイリオグループ） ◇講義「フレイル予防と AI 研究」 岡本茂雄（ノバケア） 渡邊恒文（ウエルモ） ◇講義「フレイルチェックのデータ解析からアウトリーチ事業への体系的展開」 田中友規（東京大学） ◇グループワーク  <b>情報システム</b> ◇講義「食を媒介とするコミュニケーションシステムについて」 西山未央（三菱電機） ◇講義「メタバース概論」 廣瀬通孝（東京大学） ◇ワークショップ「高齢化×VR の斜め上の未来を創り出す」 SF 思考ワークショップ 宮本道人（東京大学）	<b>ライフデザイン</b> テーマ：「はたらく」 人生の節目や未来感の意見交換  <b>企業と教員紹介&amp;雑談交流</b> テーマ：プチ座談会
8月		<b>フィールドワーク Take 4 生活支援サービス</b> ◇講義「柏市での生活支援システム展開の意義」 辻哲夫（東京大学） ◇講義「柏市豊四季台での生活支援システム展開と今後」 神谷哲朗（東京大学） ◇講義「ICT 活用への展開：老健事業について」 福留佑太（NTTコミュニケーションズ） ◇グループワーク及び総合討論  <b>ジェロンテクノロジー</b> ◇講義「認知症とテクノロジーの現状：備えのテクノロジーの実装に向けて技術の動向」 二瓶美里（東京大学） ◇グループワーク	<b>アクティブヘルス&amp;ケア</b> テーマ：人生をたのしみながら個人と地域を元気にするには  <b>ライフデザイン</b> テーマ：心に寄り添うお菓ともだち「Medi-Pet」（高校生グループ）  <b>移動分科会</b> テーマ：ひとまちラボ鎌倉見学&ディスカッション
9月	<b>1Day Workshop</b> ◇講演「フレイル予防の国民啓発活動に向けての有識者委員会の報告」 辻哲夫（東京大学） 飯島勝矢（東京大学） ◇基調講演「住宅団地の再生に向けた施策展開」 石坂聡（国土交通省） ◇ワークショップ 【産学連携プロジェクトの活動を経験し社会に伝えたいこと】 【今後の産学連携の在り方：いかにして社会貢献・事業化を果たすか】  <b>前期総括会</b> ◇各研究会の活動報告 ◇総合討論		<b>ライフデザイン</b> テーマ：「はたらく」 人生の節目や未来感の意見交換 2  <b>移動分科会</b> テーマ：高麗グリスロ視察&ディスカッション



※個別研究会は各々開催

2022年	全体ミーティング	アカデミー	サロン
10月	<b>事業地視察会</b> ◇講義「上郷ネオポリスの概要とまちづくりの取組」大和ハウス工業、上郷ネオポリスマちづくり協議会 ◇団地視察		<b>アクティブヘルス&amp;ケア</b> *テーマ：重度の要介護および終末期 (End of life) を見つめ直す  <b>ライフデザイン</b> テーマ：『ワークライフバランス』から『仕事・学び・暮らし』  <b>移動分科会</b> *テーマ：鎌倉リビングラボ DAY 企業展示&見学
11月		<b>フィールドワーク Take 5 柏豊四季台まちづくり総括</b> ◇講義「柏豊四季台団地の取組総括と今後」 ・東大としての狙い 辻哲夫 (東京大学) ・柏市としての狙い 小林唯浩 (柏市) ・UR 都市機構としての狙い UR ウェルフェア総合戦略本部 ・団地再生の各テーマごとの取組整理 事務局 ◇グループワーク  <b>高齢者就労生涯現役</b> ◇講義「高齢者雇用市場の現状と取組」 ・リクルートの取組 宇佐川邦子 (リクルート) ・パソナマスターズの取組 中田光佐子 (パソナマスターズ) ◇パネルディスカッション 【II層シニアのミスマッチ問題解消に向けて】	<b>ライフデザイン</b> テーマ：「楽しみ方」について  <b>移動分科会</b> *テーマ：移動の歴史と未来 (JARI 鎌田所長)
12月		<b>フィールドワーク Take 6 上郷ネオポリスの取組その1</b> ◇情報提供「上郷ネオポリスの団地概要」大和ハウス工業 ◇グループワークその1【今後この団地に住み続けられるには何が必要か】 ◇グループワークその2【その課題解決を上郷ネオポリスでどう解決できるのか】  <b>情報システム</b> ◇講義「多様性を支えるための技術と応用」 上岡玲子 (株) zeroionon ◇総合討論「CoMADO を使ったオンライン東大本郷キャンパス探索」	<b>アクティブヘルス&amp;ケア</b> *テーマ：今のスマホ世代が高齢者になったらどんな関わり方になるのか？  <b>ライフデザイン</b> テーマ：「活躍することによる幸福感 (ハビネス)」について



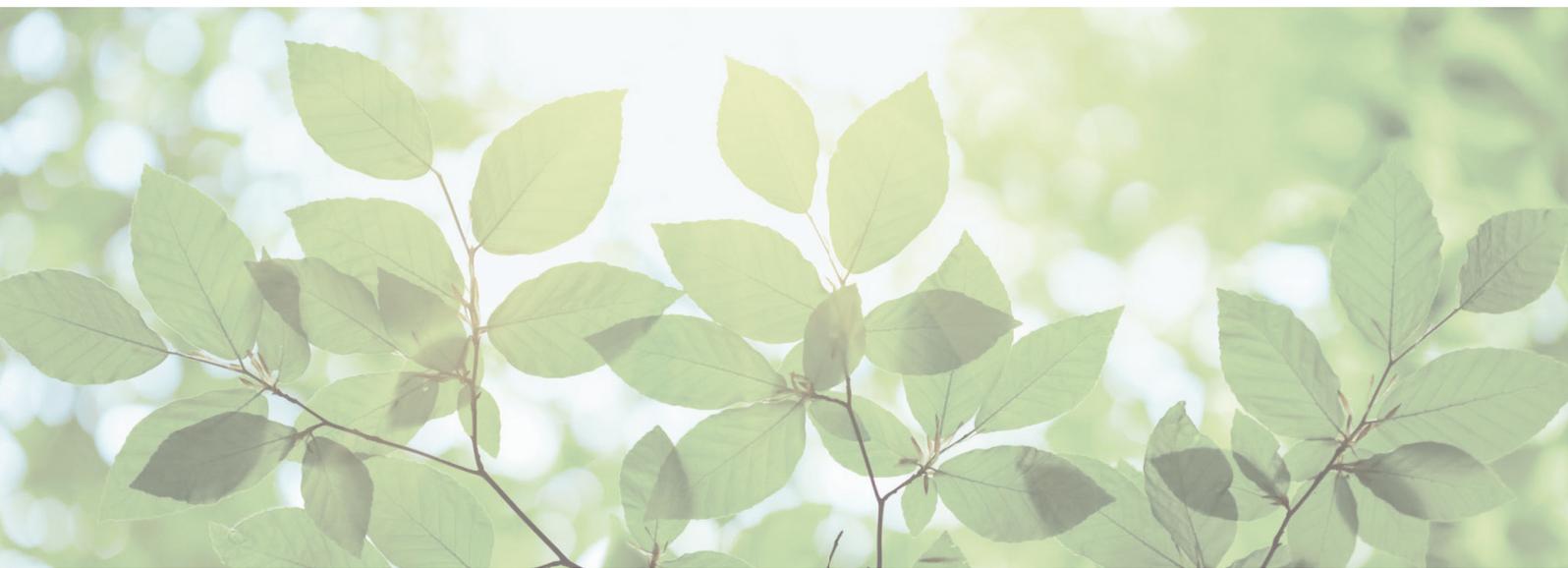
※個別研究会は各々開催

2023年	全体ミーティング	アカデミー	サロン
1月		<p><b>フィールドワーク Take 7 上郷ネオポリスの取組その2</b></p> <p>◇講義「郊外住宅団地再生検討委員会と認証の必要性」辻哲夫(東京大学)</p> <p>◇講義「多世代共生と資産受継ぎの対策」大月敏雄(東京大学)</p> <p>◇話題提供「上郷ネオポリスの取組事例の紹介」大和ハウス工業</p> <p>◇グループワークその1【団地内の多世代共生の仕組づくり】</p> <p>◇グループワークその2【資産受継ぎ対策】</p> <p><b>情報システム</b></p> <p>◇講義「食を媒介とするコミュニケーションシステムについて」西山未央(三菱電機)</p> <p>◇講義「メタバース概論」廣瀬通孝(東京大学)</p> <p>◇ワークショップ「高齢化×VRの斜め上の未来を創り出すSF思考ワークショップ」宮本道人(東京大学)</p>	<p><b>ライフデザイン</b></p> <p>*テーマ:「社会を変える若い力と未来へのライフデザイン感」模擬国連大会(高校生グループ)</p> <p><b>企業と教員紹介&amp;雑談交流</b></p> <p>*テーマ:楽しみながら未来の活躍のために</p>
2月		<p><b>金融関連及び法</b></p> <p>◇講義「認知症とビジネス～米国の能力判断ガイドラインの解説～」樋口範雄(武蔵野大学)</p> <p>◇講義「各国の認知症施策と意思決定支援～障害者権利条約勧告を踏まえて～」大熊由紀子(国際医療福祉大学)◇講義PHR 活用の動向(政策、医療業界)とAFPの取組の可能性について」岡島正泰(SOMPO インスティテュートプラス)◇グループワーク</p> <p><b>フィールドワーク Take 8 総合的なまちづくり</b></p> <p>◇講義「総合的なまちづくり:8つのテーマの実現」辻哲夫(東京大学)</p> <p>◇講義「住民が考えるまちづくり」上郷ネオポリス団地住民、こま武蔵台団地住民</p> <p>◇講義「自治体が考えるまちづくり:兵庫県三木市のまちづくりの取組」清水暁彦(三木市)</p> <p>◇講義「企業が考えるまちづくり」大和ハウス工業、UR 都市機構</p> <p>◇パネルディスカッション【産・官・学・民で実現するまちづくりとは】</p>	<p><b>アクティブヘルス&amp;ケア</b></p> <p>*テーマ:産学官連携でのフレイル予防事業を考える</p> <p><b>ライフデザイン</b></p> <p>テーマ:「貢献寿命の延伸」について</p> <p><b>企業と教員紹介&amp;雑談交流</b></p> <p>テーマ:雑談交流会</p>
3月	<p><b>年度総括会</b></p> <p>◇各研究会の活動報告 ◇総合討論</p> <p><b>全体会</b></p> <p>◇基調講演「高齢社会において産業界に期待すること ～未病コンセプトに基づく新たな価値の創造～」首藤健治(神奈川県)</p> <p>◇各活動報告</p> <p>◇総合討論【IOG 産学連携:3年間で見えてきたこと、そして2025年に向けて目指すところ】</p>		<p><b>ライフデザイン</b></p> <p>テーマ:今何か学んでいる事、学びたいこと、学ぶにあたり必要なサービスとは</p> <p><b>移動分科会</b></p> <p>*テーマ:路上実験イベント なんだかんだ 見学視察</p>



## 個別共同研究

フレイル予防を基軸に、地域のお客さまのヘルス&ウェルネスに貢献 イオン株式会社	80
ICTが地域をつなぐ架け橋であるために 株式会社NTTドコモ	81
「サラダとタマゴ」による食と健康への貢献と、 産学官民総合知でのフレイル予防産業創生に向けた取り組み キュービー株式会社	82
オーラルフレイル予防により、食やコミュニケーションを支え、 生きる力を守りたい サンスター株式会社	83
ニュータウンの“再耕”に向けて 大和ハウス工業株式会社	84
「噛むこと」研究やお菓子を通じた高齢者の オーラルフレイル予防・フレイル予防の仕組みづくり 株式会社ロッテ	85



# フレイル予防を基軸に、 地域のお客さまのヘルス&ウェルネスに貢献

イオン株式会社 共同研究

担当：堀江直裕、乾裕之

## 心身ともに健康的なライフスタイルを創造し続ける

イオンは創業以来、「お客さま第一」を実践し、お客さまや地域社会への限りない貢献こそが小売業の使命であるとの信念を貫いてきました。このような価値観のもと、地域になくはならない存在であり続けるために、必要なサービスや社会資本を充実させて、あらゆる生活シーンで便利さや豊かさを提供していきます。超高齢化の進展やコロナによる健康意識の高まりなど、従来の治療ニーズだけでなく心身ともに健康で自立した生活（ヘルス & ウェルネス）が、豊かなライフスタイルを送るために欠かせない要素となっています。この課題の解決に向け、中期経営計画の柱の一つである「ヘルス & ウェルネスの進化」を掲げ、大学や行政等の地域のパートナーと連携して、これらの早期実現を目指しています。

## イオンが有する2万拠点をタッチポイントとして活用

イオンは、フレイル予防の3つの柱「栄養（食・口腔）、身体活動、社会参加」の考え方をヘルス & ウェルネスの活動方針に取り入れるため、2018年度から東大 IOG と共同研究を行っています。

フレイル予防への行動変容を引き起こすための重要なポイントは、対策を行えば健常な状態に戻る可能性がある早期の段階の人に、日常生活の動線上で気づきの機会を提供することです。

地域で催される介護予防の教室や運動教室は、そもそも健康志向の高い住民が集まる傾向がありますが、イオンが有する店舗内でのイベントスペースや売り場などの生活者との多くのタッチポイントを活用すれば、無関心層も含めたより広い層へのアプローチが可能となります。2020年、東大 IOG の開発したフレイルチェックについて官民協働実施のガイドラインを整備し、イオンの店舗においても行政と同等の品質を担保してフレイルチェックを実施できるようにしました。

2021年には神奈川県内のイオンの店舗従業員への教育を行い、フレイル予防普及啓発活動と商品・サービス提供を継続展開できる体制を構築。同年10月にはイオン秦野店、秦野市、市民サポーターによる簡易フレイルチェック体験会や食の在り方研究会参画企業によるフレイル予防に資する食生活提案を開始。2022年度は、食生活提案を神奈川県内のイオン、イオンスタイル全店へ拡大しました。今後も店舗でのフレイル予防を通じて、お客さまのヘルス & ウェルネスに貢献してまいります。



# ICTが 地域をつなぐ架け橋であるために

株式会社NTTドコモ 共同研究

担当：福留祐太

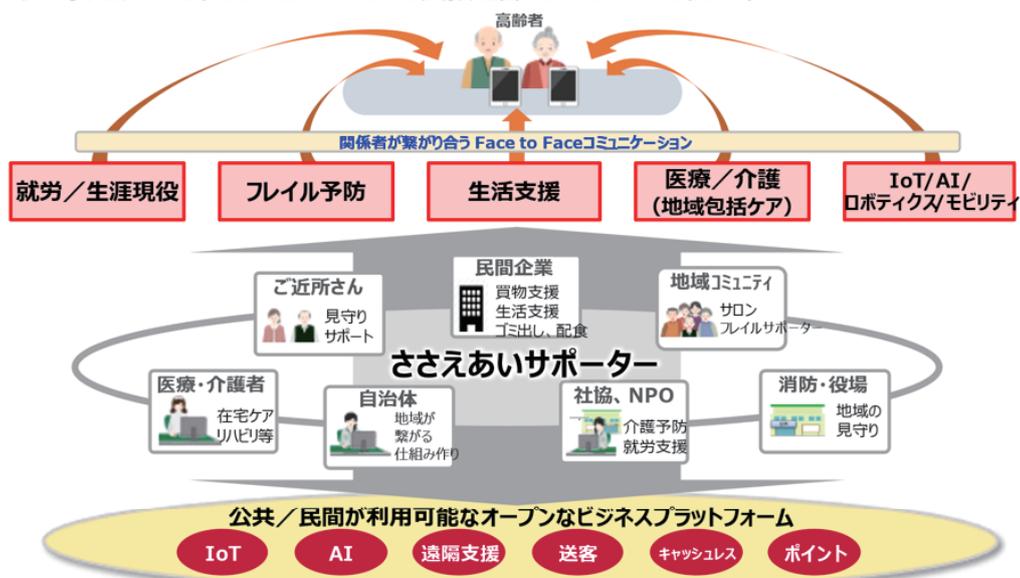
## ICTがもたらすつながり意識の強化と支援機関の効率性向上

当社ではコーポレートスローガン「あなたと世界を変えていく。」を掲げ、これまで作りあげた通信インフラの土台の上に、より新しい生活価値やライフスタイルを生み出し、社会を大きく変えていきたいと考えています。超高齢社会の領域においては、地域の多様な活動主体(行政・市民・団体・企業等)が協働する地域ネットワークの展開/浸透を目指し、あらゆる困りごとやニーズをワンストップかつシームレスに解決する仕組みづくりに取り組んでいます。

## 地域コミュニティをベースとした地域支援 PF全体イメージ



ICTインフラが地域の高齢者宅内にいき届くことで、住民間の繋がりをはじめ、生活支援を含むヘルスケア、医療/介護、フレイル対策ロボット等、公共/民間サービスのあらゆる支援を届けられるようになります。



©2022 NTT DOCOMO, INC. ALL Rights Reserved.

IOG との共同研究は 2020 年 7 月からスタートし、「生活支援」をテーマに主に柏市豊四季台地域での研究事業に参画しています。2022 年度は全国への水平展開を見据えて専用の ICT 端末だけではなく住民が持つご自身のスマートフォンで利用可能な地域イントラネットワークの仕組みを検証しました。実証事業の中では、生活支援ニーズ発掘・対応機能の向上のために様々なアンテナ機能の開発を行い、身近な民間企業および地域住民の中での世話役的な存在との連携のために ICT アプリケーションを導入しその効果を確認しました。

今後はこれまでの機能検証を踏まえて、より一歩進んだ形でのサービス実装に取り組んでまいります。

生活支援だけでなく、フレイル予防との連動やそれらに関するデータの利活用の観点も非常に重要だと認識しています。ICT インフラが住民だけでなく地域の関係者も利用するプラットフォームであり、それによって一元的に情報が集まることでの AI 解析、個人・地域・企業へのフィードバックが可能な仕組みを実現し、産学官連携の高齢社会課題の解決に貢献したいと考えております。

# 「サラダとタマゴ」による食と健康への貢献と、 産学官民総合知でのフレイル予防産業創生に向けた取り組み

キューピー株式会社 共同研究

担当：倉田幸治

## キューピーの食と健康への貢献と3つの柱「栄養・運動・社会参加」

キューピーは、2019年に創業100年を迎えた食品メーカーです。創業当時の日本人は、現在と比べると栄養状態も悪く、体も小さかったため「おいしく、栄養のあるマヨネーズを、生活必需品となるまで広く普及させて、日本人の体格と健康の向上に貢献したい」という想いで、1925年「キューピー マヨネーズ」を発売するに至りました。

そして、ライフスタイルや食に対する課題が多様化するこれからの時代、国民一人ひとりの暮らしに寄り添い、新しい食習慣の形成をめざすには、高い視座が必要になると考えました。そこで、できるだけ早期にフレイル予防の3つの柱「栄養・運動・社会参加」に取り組むことが重要である、という考え方に共感し、サステナビリティ目標の「食と健康への貢献」で健康寿命延伸への取り組みとして掲げています。キューピーは食品メーカーであるため、特に「栄養」での貢献が軸になりますが、生涯健康でいるためには栄養だけでなく、口腔機能、運動、社会参加も重要となるメッセージも啓発しております。3つの柱の考え方は、企業の枠を超えて様々な地域資源をつなぐ、大きな志と成り得ると考えております。

## キューピーの強み「サラダとタマゴ」と食産業界コンソーシアム「食の在り方研究会」

具体的には、キューピーが得意とするサラダとタマゴの提案は、日常の食生活の中で自然と摂りやすく、継続しやすい食材・メニューであると考えています。キューピーグループの長期ビジョン「2030ビジョン」では、サラダとタマゴのリーディングカンパニーをめざしています。キューピーは長年、野菜を美味しく摂れるサラダメニューを提案してきました。そして卵は、コレステロールの先入観により一時は敬遠されておりましたが、健康な人にとっては、手軽で美味しく、高齢期に特に必要となるたんぱく質を摂取できる優れた食材です。さらに卵はビタミンCと食物繊維以外の体に必要な栄養素がほとんど含まれており、野菜と一緒に摂取することで、より栄養バランスが良くなるという、この栄養価値の啓発を進めております。

以上はキューピーの一例ですが、フレイル予防においては、民間企業の暮らしに溶け込む商品やサービスが果たす役割は大きく、参画している産学連携研究「食の在り方研究会」では、フレイル予防に資する複数の食習慣の提案が、正しい形でフレイル予防の啓発とセットで提供され、日々の暮らしの中で繰り返される産業創生をめざしております。産学官民一体となった総合力・総合知をもって取り組んでまいります。



キューピーグループは  
サラダとタマゴで  
一人ひとりの健康を応援します



年齢を重ねても自分らしい生活を。

はじめてよう、フレイル予防

たんぱく質を手軽に多くとるために

3つの柱でフレイル予防

栄養 食事・口腔 身体活動 社会参加

# オーラルフレイル予防により、 食やコミュニケーションを支え、生きる力を守りたい

サンスター株式会社 共同研究

担当：永谷美幸、田子森順子

## 高齢社会の課題解決に企業ならではの役割を果たしたい

当社はオーラルケアを核に事業を展開しており、お口の健康が全身の健康につながっている、という考え方のもと、お口から全身、そして生活空間までといった健康的な生活習慣作りに貢献したいと考えて事業に取り組んでいます。東大IOGと取り組んでいる、オーラルフレイルの予防は、まさに健康寿命を延ばすことを目的としています。2010年に東京大学が高齢社会の課題解決のための産学連携の取り組みを行っているとお伺いし、年齢を重ねても自分らしく、高齢者も若い世代も生き生きと暮らせる社会の実現のために、学の力、自治体や地域住民の皆さまの力、そして企業だからこそ果たせる役割があるとの思いで参画しています。さらに2017年からは、地域住民の皆さまや歯科界への普及啓発に有効なエビデンスを取得し、高齢者のニーズに即したオーラルフレイル予防の提案をめざして、東京大学との共同研究を行っています。

## 研究成果を社会に還元し、オーラルフレイル予防産業の土台を作る

2020年には、産官学民の連携を強化する事で、オーラルフレイル予防を社会実装するため、「オーラルフレイル予防推進研究会」を設立し、オーラルフレイルの定義や予防の重要性に関するエビデンス整理を実施し、オーラルフレイル予防産業の土台作りに取り組みました。また、2021年の柏スタディでは、オーラルフレイルの研究に参画するとともに、サンスターとしても独自のデータ取得を実施し、解析を進めています。さらに2023年からは、オーラルフレイル予防推進研究会の活動の一環として、地域住民の活力を生かし、産学官民共同でオーラルフレイル予防活動に取り組んでいます。引き続き、地域住民の皆さまがオーラルフレイルに早期に気づき、自分事化し、行動変容につながるような効果的な介入手段を見出し、地域拡大につなげるための啓発方法の確立に向けて、取り組んでいきます。



# ニュータウンの“再耕”に向けて

大和ハウス工業株式会社 共同研究

担当：田中紀之、三鬼健太

当社では過去に開発した郊外型住宅団地(ネオポリス)等を再耕する「リブネスタウンプロジェクト」を始めています。これは、住む人とともに、まちの個性を耕し、育て、まちに再び賑わいを取り戻そうとするプロジェクトです。

IOGの先生方とは、前身のジェロントロジー寄付研究部門の頃からお世話になっておりますので、すでに15年を超えてお付き合いさせていただいています。出向させていただいたメンバーは、柏や東日本大震災の被災地などといったIOGのフィールドで、先生方と一緒に高齢社会の課題解決に取り組むことで、アカデミックなノウハウから現場での行政・住民・事業者等との関わり方のノウハウに至るまで、様々なことを習得させていただいてきました。それらを当社の取組みに活かし、またその活動の状況や成果を先生方と一緒に振り返ることにより、ノウハウがブラッシュアップされていくものと考えています。

現在は、当社の上郷ネオポリス(横浜市)をモデルフィールドとした既存住宅団地における少子高齢化対応手法やまちづくり認証制度に向けたまちづくり評価手法について、先生方とともに検討し、取り組んでいます。具体的には、団地に関するオープンデータを活用したアセスメント手法とその課題について、団地もしくは団地を含む日常生活圏域としての医療介護体制のあり方と既存制度の課題、認証制度の全体イメージの具体化と実現に向けた課題整理、等について進めてきました。認証制度については、地域団体やそれらをサポートする事業者等にとっては、手間もかかるものですが、それに見合うだけのメリットも必要となると考えており、行政の制度や施策等と結びつけた仕組みとできるかが課題でしたが、今年度から行政機関や業界企業等を交えた郊外住宅団地再生検討委員会がスタートし、検討が始まっています。

写真：上郷ネオポリス



# 「噛むこと」研究やお菓子を通じた高齢者の オーラルフレイル予防・フレイル予防の仕組みづくり

株式会社ロッテ 共同研究

担当：川村 淳

## 「噛むこと」と高齢者の健康のエビデンス構築を目指して

「よく噛んで食べなさい」。昔から言われてきたこの言葉ですが、現在、医学や科学の進歩によって、「噛むこと」の必要性や、様々な効果が明らかになってきています。その中には、口腔に対する影響だけではなく、脳や心、体にまで多大な影響を及ぼす効果も期待されています。そこで弊社は「噛むこと」の研究に取り組んでまいりました。

近年、加齢によるお口の些細な衰えであるオーラルフレイルが、フレイルの中でも早期に顕在化して、要介護や死亡のリスク因子となることが明らかになっていきます。一方で、現在のオーラルフレイルの対策としては失った歯の補綴など、重度な状況での治療的な行為が大半となっています。

そのため、産官学が共同して研究を行うIOGの取り組みを通して、初期のオーラルフレイルの対策として、「噛むこと」の意識や行動がどのような影響を与えるかについて、共同研究を行っています。この研究を通して、エビデンスに基づいた初期のオーラルフレイル予防法を模索し、高齢社会の課題解決を行うことを目指しています。

## 産官学での口腔の健康チェックイベントと通じて

加齢によるお口の衰えの最も怖いところとしては、「少し硬い物が噛めなくなった」という些細な衰えが、あまり意識に上がらないことや、仕方がないこととしてとらえられているところだと考えています。

そこで、秦野市の行政の方と、イオン株式会社の方とともに、オーラルフレイルについてのイベントを行いました。イベント当日は実際に咀嚼能力を客観的に判断できるアイテムを使って測定し、オーラルフレイルについての情報を紹介させていただきました。参加者の95%の人が咀嚼能力の測定は初めてで、お口の健康の重要性について感じていただきました。

このような取り組みなどを通して、お口の機能を意識していただくことで、健康寿命の延伸やQOLの向上に貢献できればと考えています。

